

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100413		
法人名	医療法人 外海弘仁会 日浦病院		
事業所名	認知症老人グループホーム ボンジュール そとめ		
所在地	長崎市神浦丸尾町1180-3		
自己評価作成日	平成23年9月12日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボンジュールそとめは周囲が田園風景に囲まれ目の前には神浦川があり、土日祝にはたくさんの家族連れが訪れ賑わいます。又少し行くと県民の森があり棚田もあり自然が豊かで静かなところ。地域行事には参加します。平成15年開設当初から入居され安定した生活を過ごされている方もあります。体調管理に十分注意しています。毎週院長が回診にきます。急変時や重度化された場合は母体の日浦病院へ緊急入院していただくなど安心して利用されています。ホームではなるべく自立できる事を一つでもして頂くように務めています。出来るだけオムツをしなくて済むようにする事も一つです。共同生活で個々に応じた役割り活動でできる力を発揮していただくようにしています。それぞれに頑張っている活動されています。又おやつ作りを一緒にします。これがなよりの楽しみようです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に恵まれ、事業所の広い玄関周りは利用者や職員で育てた草花と元気な犬、洗濯物が干してあり一般の家庭と思わせる佇まいとなっている。理念の「人としての尊厳を尊重する」に基づいて、職員の思い込みで判断せずに本人の言葉に耳を傾け、思いを汲み取ることに努めている。利用者の声から把握した情報をもとに細部に渡るケアの工夫も「利用者の最大限の自由を保障する」支援に繋がっている。また、地域の高齢者をホームに招きおやつを食べたり、おすそ分けを互いにするなどグループホームに求められる地域密着型の本来の姿とも言える地域との関わりにも努めていることなど事業所の優れた点は多い。職員手作りのレクリエーションツールは利用者の残っている能力を活用するための工夫であり、また、母体の医療機関との連携で受診記録も充実しているなどホームでの生活が本人、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年に職員全員で理念を作り上げてその後は振り返りつつ実践してきました。玄関に掲示しています。又理念について職員でどうすれば実践できるかを会議で話題にしたりしています。	理念は朝夕の申し送り、月一回の会議など日常的に職員間で話し合い、周知している。ケアプラン会議では、言葉遣いや決めつけしないケア、個々の能力を活かした支援など、理念に基づいた実践について検討し、日々の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのイベント等に参加 地域の方より菊苗を頂き花作りを指導していただいたり、ホームで一緒にちまき作り、学童の子供たちを招き交流しました。手作りの饅頭をお世話になっている方々に持って行ったりしました。	地域との交流は、運動会や各種祭りへの参加、学童保育の児童との交流など活発に行っている。母体の病院が行う健康教室に地域の方と参加したり、散歩中の近所の方をお茶に招いたり、双方向での交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を母体の日浦病院で開催していただきました。家族の方に参加を呼びかけました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事などの情報をいただいています。会議での意見を伺いつつどうすればいいか職員間で話し合い学童との交流や菊作りなど実践へとつないでいます。	運営推進会議は年6回開催されている。内容は利用状況や活動報告、外部評価報告などで、出された意見や提案は積極的に運営に取り入れている。参加者は利用者を含め、老人会長、地域の警察官、商店主、行政など多彩であるが、家族代表の参加回数が少ない。	利用者家族の高齢化や1ユニットであるため参加できる家族が少ない状況ではあるが、様々な工夫で家族への呼びかけを継続し、運営推進会議に参加してもらい、家族の意見を反映できるよう取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査時入居者が伝えられない事を伝えたり運営推進会議での折に伝えています。議事録と一緒にホーム便りを郵送してホームでの出来事を伝えるようにしています。	今年度、長崎市から介護相談員2名の派遣を受け、4名の利用者の相談があった。内容は事業所に伝えられ、検討し日々の支援に活かしている。行政の担当課には「お便り」を郵送したり、相談をしたりと連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	屋間は鍵の施錠はしていません。又管理者は県の身体拘束廃止推進員養成研修修了ですのでその資料を基に身体拘束禁止の研修を内部で行っています。	身体拘束による弊害は、精神的な拘束も含め職員は正しく理解している。玄関は施錠しておらず、利用者は犬の餌やり、洗濯物干し、新聞取り、花の水やりなど自由に出入りしている。禁止の言葉を使わないで支援できる状況を作るよう工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部の研修に参加したり県の主催のシンポジウムに参加しています。内部での研修も行い、こういった事例が虐待になるかなど勉強し日常の支援で注意すべき事を学び、言葉使いなど注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎市主催の研修に参加しました。事業所内部のカフェテリア研修で報告会を行い職員間で学ぶ機会をもちました。活用したほうが良いのではないかと話しましたがそこまで必要は無かったようです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明し納得していただいて利用していただいています。改訂時はその旨連絡し説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。又面接にこられた時ご家族様へ要望など尋ねています。運営推進会議ではご家族様を交代で参加して頂くように案内を出しています。	職員は利用者の要望を聞き取り、できる限り反映させている。ドライブなど日々の活動はもとより、部屋替えの要望も時機を見て実現させた例がある。家族には電話や面会時に時間を取り、意見や要望を聞き取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回はそとめで全職員が集まり会議をしますその時に意見提案を聞くようにしています。	月一度の会議では具体的な要望が職員から出されている。車の購入、倉庫の設置、避難用ベランダの増設など施設整備面の要望が多く、順次、実現していく予定である。勤務についての希望も聞き、計画に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度がありますので職員は各自が目標を設定し働くシステムになっています。半年ごとに目標設定し管理者が個別に面談。評価が自己評価と管理者からの評価、その後評価委員より最終の評価が出ます。職員は向上心がもてるようです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部と研修に行き報告書を書く。又内部のカフェテリア研修にて発表する機会があり、より力量を発揮できる機会を得られたと思う。職員のケアの実際と力量は日々の支援の中で注意点や反省する事を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しているので同業者とボーリング大会で交流したり、事例検討会や研修を共に受けたり、意見交換することでサービスの質を向上していくように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と面談を行い聞き入れ、話し合っています。各職員の気づきを介護記録へ記入し、ミーティングで情報収集しようとしたほうがいかなど職員間で話し合っ本人様を理解していくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも聞き取りを行う為面談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様に何がまず必要かご家族様も含め職員共にサービス担当者会議を開催しています。本人様の様子を観察しながら必要に応じた対応をするよう務めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングにて一緒にコーヒーを飲んだりしてゆったりした時間にコミュニケーションを取り本人様の言いたい事を聴いたりすることで関係が築けていけると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人様の近況を伝えています。又電話の取次をしています。中には面会に来てほしいような入居様が居られたら電話連絡して訪問して頂く事もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームにお友達が訪ねて来られる事もあります。その時はゆっくりお話が出来る様に環境を整えています。ドライブで入居者の故郷の近くへ出かけることもあります。	馴染みの理美容院への同行したり、昔からの行きつけの商店に買い物に行くなど支援している。面会は夜8時までは自由で、かわるがわる同級生の訪問がある利用者もいる。また、電話をかけた、取次ぎの支援も行い馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時のお茶の時間はリビングにて皆さんと一緒にいただきます。その時間を持つ事で孤立しないで会話が弾み15時のレクレーションと一緒に活動する事からも関係作りができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院されたら入居者様と一緒にお見舞いに出かけて早く元気になっていただくように声をかけています。又亡くなられたら葬儀に参列するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望に応じて食事、入浴、買い物など支援しています。又職員が入居者が言い易い雰囲気作りにも心がけています。出来るだけ要望を聞き入れています。	コミュニケーションを大切にし、日勤者がゆったりした午後の時間に1対1で各利用者の意向を聞き取っている。ポツンとひとりの方がいればそっと寄り添い、ゆっくり思いを聴きとり、申し送りノートで職員は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて聞き取りしています。又日々の会話の中から聞き取ったことなどを介護記録に記録することで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を毎日書いています。個別にバイタル、排泄、入浴 行動 心身状態 気づきを記録します。特に変化のある方は申し送りにて状態や支援の方法なども全職員が把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月月末に全職員が集まりケアプラン会議を行いその中で日常の気づき、アイデアと出し合い計画に反映しています。本人様とご家族様と職員でのサービ担当者会議で要望など聞き計画に取り入れています。	介護計画は、センター方式で聞き取ったことを基に利用者、家族の希望を取り入れ作成している。月1回ケアプラン会議で評価し、通常、短期3ヶ月、長期6ヶ月から1年で、変化があった時はその都度見直している。ただし、介護計画と日々の支援とのつながりがわかりづらい。	職員が、介護計画は日々の支援とつながるものであることを日常的に意識するためにも、実践の記録方法を、計画と支援が連動していることが目に見えるものにする工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護計画実行表に個別記録しています。そこから申し送りをを行い職員間で情報を共有します。又ケアプラン会議でもこの記録を利用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院や買い物、外出、病院への支援などなるべく本人様の希望に添って支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方に菊作りを指導していただいています神浦派出所のお巡りさんもネットワーク通信を毎月持ってきて頂き地域の安全に注意すべき事を伺っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が日浦病院なので毎週一回院長が回診に来られます。又本人様の希望の病院へ支援しています。受診状況は電話連絡でご家族様に報告し受診記録は個別に保管しています。病院から重要事項の説明がある時はご家族様にも同行していただいています。	母体の医療機関にない診療科目は、個別に職員が同行支援している。薬の変更や受診結果は家族に知らせ、家族が同行する場合も職員が一緒に支援している。利用者の誕生日を健康診断の月として、受診しており安心できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日浦病院併設のホームなので外来看護師と電話連絡したり急変時や突発的な発熱時など夜間も電話連絡しています。受診時はスムーズに治療が行くように支援したり、体調面やバイタルを伝えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師と症状や入院までの経緯など連絡し合います。又退院される時は病院の地域連携室より連絡があります。病院から看護サマリーを頂くので入院中の情報がわかります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは看取りまでは行っていません。重要事項説明書にも記載しています。重度化された場合はご家族様の同意の上24時間母体の日浦病院へ入院支援しています。	重度化、終末期に向けた方針は明確であり、段階を踏んで母体医療機関と連携を取り、入院支援をすることとしている。重要事項説明書に記載しており、家族には契約時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で職員全員が救命救急を修了し修了証書をいただいています。又消防避難訓練時に長崎市北消防署神浦派出所の指導を受けたり病院からダミー人形を借りて自主訓練を行い実践力が身につくようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練を行い個別の避難方法を身につけるようにしています。地域の方々に訓練に参加して頂きました。近隣の方々へ火災になった時にベルで知らせるようにしているが実際に鳴らしていないので今後鳴らしてみたいと思います。今後の課題です	火災想定避難訓練は自主訓練を含めて年に5回実施しており、近隣住民の参加での訓練も行っている。今年、警察署から事業所が津波警戒区域に入るという情報を得ており、県民の森に避難することも周知している。備蓄については保管する場所や倉庫がないため、今後の課題となっている。尚、自己評価票の課題であった試験的にベルを鳴らすことは実施されていた。	万が一の災害に備え、災害時用の備蓄とそれを保管する場所を検討し、準備されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について内部研修を受けました。守秘義務の誓約書も取っています。これらの事も周知して日常の支援を行い、本人様の気分を損ねるような言葉は使わない、笑顔になっていただくように気をつける。入居者の意見を尊重するなど対応しています。	理念に利用者の尊厳の尊重を謳っており、職員は利用者の話をよく聞き、話を尊重する支援に努めている。職員の守秘義務の誓約書は入社時に取っており、家族へは契約時に写真掲載の説明をし同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常コミュニケーションを大切にしています。殆どの方が希望や思いを職員へ話されています。なかなか自己決定できない方もおられ会話の中で選択肢を増やした声かけをするなど働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添う様にしています。しかし職員の人数の制限があり希望に添えない場合も出てきます。時間や日にちをずらす場合もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院への支援を個々に行っています。洋服のコーディネートを相談うけたりします。又テグハグにならない様に特に外出時は見守り身だしなみに注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いを聞き出し把握しています。出来だけ食べられる食材を代用し調理しています。個々の能力により野菜の皮むき、調理盛り付け、配膳、片付けをしていただいています。	利用者は食材チェック、もやしの根切りなどの下ごしらえ、配膳など個々に担当して職員と一緒にしている。正月のおせち、節句のちまき、お弁当を持ってのドライブなど職員は利用者の食事の時間が楽しくなるよう企画し支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は日浦病院の管理栄養士のたてたメニュー表を参考にしています。個々により軟飯、ほぐし食などで出来るだけ残食がないようにしています。水分は時間毎にお茶の時間を設けています。介護記録に個別ごとに摂取量を記録します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長崎市主催の口腔ケアの研修に参加しました。職員が口腔ケアの大切さを理解した上で日常の口腔ケアを行っています。入居者は毎食後かさずいれば洗浄、うがいをされています。自力で歯磨きできない方は介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツはしないようにしています。個々に声かけ、時間を見計らい誘導するよう気をつけています。夜間はトイレが困難な方は居室にポータブル設置を行い失禁をへらすようにしています。	職員は利用者全員の排泄のリズムを把握しており、時間を見ながら支援している。昼間はトイレを使用するよう配慮した結果、退院時にオムツだった利用者が今はリハビリパンツに改善している例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳、ヨーグルトを摂取していただくようにしています。又運動をしていただいている方もいます。高齢者は便秘になると大変なので下剤で調節しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人様の希望に添うようにしています。しかし入浴が嫌いな方もおられます。タイミングをみてその方の状態に合わせて入浴していただいています。	利用者の体調に配慮しながら、本人が自由に入浴できるよう支援している。拒否の方には毎日午前午後声をかけたり、毎日足浴をすることで拒否が軽減した例もある。同性介助にも対応しており、利用者が入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安定剤はほとんど使用しないようにしています。しかしどうしても入眠困難時は服薬していただく事があります。昼間のレクレーションなどで程よい疲れで夜間良く休んでいただくよう気をつけています。休息は個別で各自自室でされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の説明書を頂きますのでそれを個別のカルテに保管しています。内服が変更になった時は受診記録にも記録し送り全職員が共有できるようにしています。症状の変化は介護実行表に記録して確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材のチェック、犬の餌やり、天気図記録、体操係、炊飯器のスイッチ入れ、洗濯たたみなどそれぞれの方に役割りをお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出は2~3名で出かけています。必ず職員が付き添います。入居者皆で西海市や長崎の三重の方まで出かけた地域の夕涼みには希望者のみ出かけました。ご家族様と一緒に外出希望される時は外出届けを出して頂くようにしています。	利用者はホームの玄関前に広がる広い敷地で植物の水やり、犬への餌やりなど自由に入出入りし外気浴を楽しんでいる。ドライブは日祝日や受診を含め頻繁に支援している。また、本人の希望に沿って買い物、外出、散歩などにも同行するなど利用者の外出の楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自己管理の人は必要に応じて使い、ホームの金庫に預かっている方はその時に応じて出して本人様が使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて取次しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度設定をおこない、換気扇を利用し居心地の良さを配慮しています。季節の花を飾ったり、地域の季節感のある写真を飾っています。又ホーム便りも掲載しています。庭やリビングには皆さんが座りくつろげるように椅子を置いています。	豊かな自然が眺められ、季節の移り変わりが感じられる明るいリビングには、手作りの貼り絵やレクリエーションに使うお手玉がさりげなく置かれている。オープンなキッチンからは食欲をそそる調理の匂いがしたり、洗濯物を畳みながら、職員や利用者のおしゃべりの声が飛び交ったりと家庭的な温かさにあふれた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、それぞれに自分の思い思いの場所で過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にもソファを置いてるところがあります。自分専用のテレビを置いている人もいます。時々本人様と相談しつつ確認しながら居室の家具の配置換えをしたり、部屋の交代をする事もあります。	掃除は朝から職員が行い、自分でできる利用者の部屋には掃除道具が揃えられている。持ち込み制限はなく、利用者によって使い慣れた化粧道具や家族の写真、書籍など置かれている。ただし、事業所内に現在スペースがないためオムツやパッド類が段ボールのまま部屋に置かれている状況である。	利用者が居心地よく居室でゆったり過ごせるよう、段ボールがむき出しにならないよう工夫をし、違和感のない部屋づくりを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	年毎に入居者様も高齢になり歩行が困難となリつつあります。今年は手すりを付け足しました。又自分で出し入れしやすいようにタンス、ベッドの配置を変えたり、荷物を整理するのを手伝ったり、カーテンを調整して居室を明るくし転倒しないように工夫しました。		